

令和5年度 第2回

茅ヶ崎市都市計画審議会

議題（4）ちがさき都市マスタープラン中間評価について

（報告）

令和5年11月14日

ちがさき都市マスタープラン中間評価

(1) 評価方法

(2) 評価結果

(3) 今後の取り組みの方向性

(4) 今後のスケジュール

目次 Agenda

中間評価方法の概要

中間評価の方法については、都市計画法に基づき、都市現況及び将来の見通しを定期的に把握するため5年に1度実施されている都市計画基礎調査の結果等を活用し、都市の動向を把握する「事業進捗の把握」と、総合計画の進行管理の基礎資料とすることを目的に実施している市民満足度調査及び市民意識調査を活用し、市民のまちづくりに対する満足度や重点を置くべき政策分野を把握する「市民意識の把握」に分けて行います。まちづくりに関する事業が進捗することにより、その結果として市民意識(満足度や重要度)が変化し、将来都市像の実現に向けた進捗を確認し、今後の取組の方向性を示すこととします。

将来都市像の実現に向けた進捗を把握

(1) 事業進捗の把握

分野別取組方針毎に都市の動向を把握する
指標を設定し、定量的な評価を実施



相互作用

(2) 市民意識の把握

総合計画の進行管理の基礎資料となる
市民意識調査を活用し、定性的な評価を実施

(1) 事業進捗の把握

全体構想の体系図を下図に示します。「将来都市像」を実現するため、都市づくりの根底の考え方となる「基本理念」、その理念のもと、どのような都市を目指すのかを示した「都市づくりの目標」、さらに6つの「分野別の取組方針」が体系づけられています。

事業進捗を把握する上で、この6つの分野別の取組方針毎に、代表的な評価指標を設定し、まちの変化を確認します。なお、指標の中には、中間評価時点で傾向を把握できないものもあり、それらの評価は、令和11(2029)年度の改定に向けて行う期末評価で行うこととします。

【分野別の取組方針】

将来都市像

土地利用

多様なライフスタイルを支えるまち

交通体系整備

楽しく快適に移動できるまち

自然環境保全・緑地整備

人と生きものが共生するみどり豊かなまち

都市景観形成

軽やかな気持ちで過ごせるまち

住環境整備

心地よく、住みよいまち

都市防災

強さとしなやかさを備えた安全・安心なまち

基本理念

都市づくりの目標

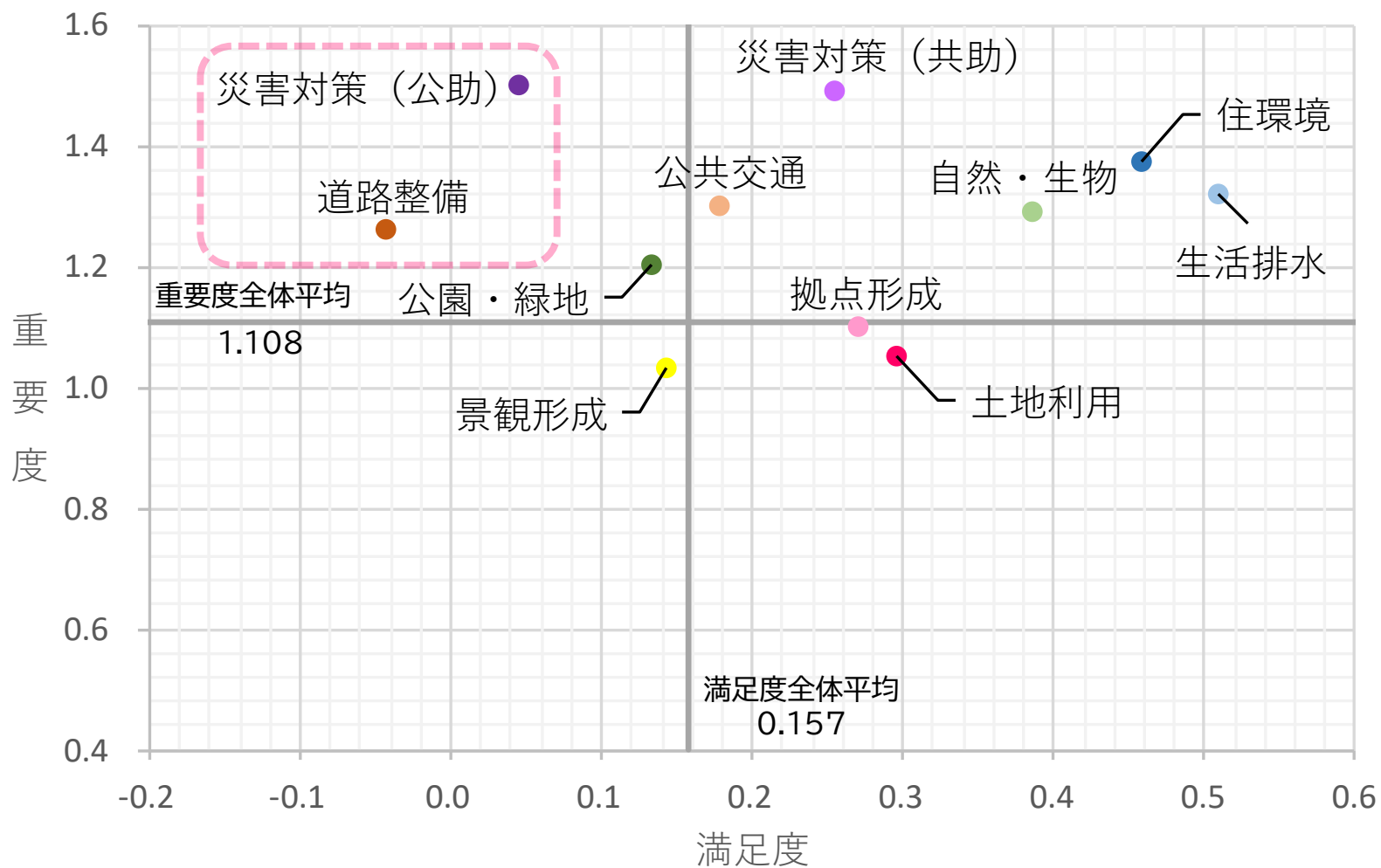
都市の動向を
把握する指標

分野別取組方針 目指す方向	考え方	評価指標	出典
土地利用 多様なライフスタイルを 支えるまち	■地域特性を生かした都市づくり	地区計画の地区数(累計)	—
	■足を運びたくなる拠点の形成	拠点への都市機能集積状況	都市計画基礎調査
交通体系整備 楽しく快適に 移動できるまち	■安全で快適な道路交通の基盤づくり	都市計画道路の整備率	都市計画課資料
	■過度に自動車に依存しない交通体系の形成	年間公共交通利用回数	都市政策課資料
	■暮らしを楽しむ移動環境の形成	自転車走行環境整備率	道路管理課資料
自然・緑地整備 人と生きものが共生する みどり豊かなまち	■人々が身近にふれあうみどりの充実	都市計画区域における都市公園等の整備率	都市計画基礎調査
	■生きものが生息・生育するみどりの確保	農地、山林、水面、荒地等の自然的土地利用の割合	都市計画基礎調査
		自然環境評価調査における指標種の確認数	自然環境評価調査
■みどりと人々が出会う協働の仕組みづくり	—	—	
都市景観形成 軽やかな気持ちで 過ごせるまち	■景観資源と眺望の保全と継承	景観資源の指定件数(累計)	景観計画
	■屋外の生活を楽しめる空間の創出	景観まちづくりアドバイザー派遣回数(累計)	景観みどり課資料
	■茅ヶ崎の価値・魅力を体感できる機会の創出		
住環境整備 心地よく、住みよいまち	■快適な住環境の形成	空き家実態調査における空き家率	空家等対策計画
		狭あい道路率	都市計画基礎調査
		公共下水道(汚水)の整備率	下水道河川建設課資料
		都市公園の徒歩圏人口カバー率	都市計画基礎調査
	■安心して住み続けられる住環境の形成	住宅の耐震化率	耐震改修促進計画
	特定事業計画におけるバリアフリー化完了件数(累計)	バリアフリー基本構想	
都市防災 強さとしなやかさを 備えた安全・安心なまち	■災害時の被害の軽減と都市機能の維持を実現 できる基盤づくり	(再掲)都市計画道路の整備率	都市計画課資料
		(再掲)狭あい道路率	都市計画基礎調査
		公共施設の耐震化率	耐震改修促進計画
		公共下水道(雨水)の整備率	下水道河川建設課資料
		千ノ川整備率	下水道河川建設課資料
	■被災後の復興に向けた取組の推進	緊急重点区域における地籍調査の進捗率	建設総務課資料
■自助・共助による取組の促進	—	—	

(2) 市民意識の把握

分野別取組方針		茅ヶ崎市のまちづくり市民満足度調査				茅ヶ崎市市民意識調査	
		H24 (2012)	H26 (2014)	H27 (2015)	H29 (2017)	H31/R1 (2019)	R3 (2021)
土地利用	土地利用	市街地と自然環境が調和した土地利用				里山などの自然と住宅、商業、工業などの市街地がバランスよく配置されたまちの形成	
	拠点形成	駅周辺の市街地と快適性や利便性、にぎわい				便利で居心地のよい都市拠点の形成	
交通体系整備	道路整備	近隣市や地域を結ぶ幹線道路や橋				道路などの整備による快適な移動環境の形成	
	公共交通	鉄道やバスなどの公共交通の利便性				公共交通(鉄道・バス等)	
自然・緑地整備	公園・緑地	やすらげる身近な公園や緑地				身近な公園・緑地	
	自然・生物	海岸、河川、里山等の自然とレクリエーション環境				海岸や河川、里山のみどりと身近な生きものの保全	
都市景観形成	景観形成	地域の特性を生かしたまちなみ・景観				魅力的な景観の形成	
住環境整備	住環境	自宅周辺の居住環境				心地よい住環境	
	生活排水	公共下水道の整備状況				生活排水の適正処理	
都市防災	防災対策	【同種の項目なし】				災害に強いまちの形成	
	地域防災力	地域の防災対策				地域における防災への備え	

分野別取組方針	評価指標	傾 向	評 価
土地利用	地区計画の地区数(累計)	→	☹
	拠点への都市機能集積状況	—	期末に評価
交通体系整備	都市計画道路の整備率	→	☹
	年間公共交通利用回数	↓	☹
	自転車走行環境整備率	↑	☺
自然・緑地整備	都市計画区域における都市公園等の整備率	↑	☺
	農地、山林、水面、荒地等の自然的土地利用の割合	↓	☹
	自然環境評価調査における指標種の確認数	—	期末に評価
都市景観形成	景観資源の指定件数(累計)	↑	☺
	景観まちづくりアドバイザー派遣回数(累計)	↑	☺
住環境整備	空き家実態調査における空き家率	↑	☹
	狭あい道路率	↓	☺
	公共下水道(汚水)の整備率	↑	☺
	都市公園の徒歩圏人口カバー率	→	☹
	住宅の耐震化率	↑	☺
	特定事業計画におけるバリアフリー化完了件数(累計)	↑	☺
都市防災	(再掲)都市計画道路の整備率	→	☹
	(再掲)狭あい道路率	↓	☺
	公共施設の耐震化率	↑	☺
	公共下水道(雨水)の整備率	↑	☺
	千ノ川整備率	↑	☺
	緊急重点区域における地籍調査の進捗率	↑	☺



市民意識の項目別相对比较(令和3(2021)年度)

分野別取組方針		重要度		満足度		傾 向
		傾向	R3(2021) 評価点(順位)	傾向	R3(2021) 評価点(順位)	
土地利用	土地利用	↑	1.054(10)	↑	0.296(4)	重要度・満足度共に上がっており、現状の取組を維持していくことが求められている
	拠点形成	↑	1.100(9)	↑	0.270(5)	
交通体系整備	道路整備	↑	1.264(7)	↓	-0.043(11)	重要度が上がる一方、満足度が下がっており、特に道路整備は、満足度が最も低く、取組の強化が求められている
	公共交通	↑	1.301(5)	↓	0.178(7)	
自然・緑地整備	公園・緑地	↑	1.202(8)	↑	0.134(9)	重要度・満足度共に上がっており、現状の取組を維持していくことが求められている
	自然・生物	↑	1.294(6)	↑	0.385(3)	
都市景観形成	景観形成	↑	1.035(11)	→	0.143(8)	重要度が上がる一方、満足度が変わっておらず、現状の取組を維持していくことが求められている
住環境整備	住環境	↑	1.376(3)	↓	0.458(2)	重要度・満足度共に高く、現状の取組を維持していくことが求められている
	生活排水	↑	1.323(4)	↑	0.509(1)	
都市防災	防災対策	↓	1.501(1)	↑	0.045(10)	特に防災対策は、重要度が最も高く、満足度が低いことから、災害につよいまちの形成に向け、取組の強化が求められている
	地域防災力	↑	1.493(2)	↑	0.255(6)	

分野別取組方針	評 価	評価の内容
土地利用	維持	事業の進捗が見られないものの、重要度・満足度共に上がっています。地域特性を生かした都市づくりや足を運びたくなる拠点の形成など、土地利用の目指す方向は、計画的な時間軸で実現していくものであり、現状の維持しつつ、継続的な取組が必要です。
交通体系整備	強化	自転車走行環境の整備の進捗は見られるものの、都市計画道路のような幹線道路の整備は進んでおらず、重要度が上がる中、満足度は低くなっており、安全で快適な道路交通の実現に向けて、取組の強化が必要です。また、コロナ禍において利用回数が落ち込む公共交通についても、取組の強化が必要です。
自然・緑地整備	維持	都市公園の整備率は微増しているものの、農地を中心に自然的土地利用の割合は減じています。その中で、重要度・満足度共に上がっています。現状の取組を維持しつつ、現環境の悪化を防ぐ取組が必要です。
都市景観形成	維持	事業の進捗が見られる中、重要度が上がり、満足度は変わっておらず、現状の取組を維持しつつ、事業の進捗を実感できる取組が必要です。
住環境整備	維持	一定の事業進捗が見られる中、重要度・満足度共に高く、取組を維持しつつ、住環境の悪化を防ぐ取組が必要です。
都市防災	強化	一定の事業進捗が見られるものの、大規模地震の発生や、気象災害の激甚化・頻発化を背景に、市民意識において、特に重要度が高い中で、満足度が低く、更なる取組の強化が必要です。

交通体系整備において強化する事項

- ・本市の地形的な条件等から、徒歩や自転車での移動の多さは、茅ヶ崎らしさを表す要素の一つであり、茅ヶ崎らしさを高める事項で整理した「街なかの移動を楽しめる」を踏まえれば、都市マスタープランに示す、徒歩や自転車で移動が楽しめ、過度に自動車に依存しないまちづくりに向けた取組を強化していく必要があります。具体的な方針は以下の通りです。
- ・都市の骨格となる都市計画道路のような広幅員の道路整備に関しては、供用開始までに長い時間と多額の費用がかかることから、簡単に整備率の向上は望めません。しかしながら、本市は、幹線道路の整備が遅れており、生活道路に住民以外の車や自転車が入り込み、信号のない交差点において、事故が発生するなど、危険な状況が見受けられます。このため、幹線道路の整備を着実に進めるとともに、生活道路では、交通規制やルール啓発、カラー舗装や路面標示等、様々な手段を用いて、安全対策を強化していく必要があります。
- ・公共交通に関しては、高齢化の進展等を背景に重要度が増しており、更なる充実が求められます。しかしながら、コロナ禍において、利用回数が落ち込むなど、大きな影響を受けている現状から、単に便数を増やすような方策は、公共交通の存続自体が危惧されます。そのため、地域特性や移動需要を的確にとらえ、それに応じた交通モードに転換するなど、これまでの施策にとらわれない、柔軟な取組が必要です。

都市防災において強化する事項

- ・近年の気象災害の激甚化・頻発化や大規模地震の発生等を背景に、防災に関する市民の関心が、かつてないほど高まっており、取組の強化が求められている分野です。具体的な方針は以下の通りです。
- ・延焼クラスターを分断する広幅員道路の整備や災害時の円滑な避難に資する狭あい道路の解消、不特定多数の方が利用する公共施設の耐震化、市街地に降った雨を、速やかに排除するための下水道整備や河川整備等、これまで行ってきたハード対策を着実に進めるとともに、地域における防災力を強化するソフト対策も含めた減災への取り組みを引き続き推進する必要があります。併せて、いつ起こるかわからない災害への備えとして、被害が発生した際に、迅速かつ的確に復興まちづくりを行うための事前準備を強化していく必要があります。
- ・気象災害の激甚化・頻発化や市域の1/4が浸水想定区域となっている本市においては、被害の発生が予測される区域を踏まえた居住誘導を行うとともに、浸水深に応じた防災対策や安全確保を定める防災指針を作成するなど、事前防災型のまちづくりを推進していく必要があります。

